

## はじめに

私ども千葉大学教育学部授業実践開発研究室より、研究室紀要『授業実践開発研究』第 11 巻をお届けさせていただきます。

この紀要は、研究室に所属する者、かつて所属した者、あるいは研究室と密接に関わって研究している者による授業実践開発研究に関わる研究の成果を収録するもので、毎年 1 巻の発行を目指しています。

私どもの研究室は、2001（平成 13）年 4 月、藤川が千葉大学教育学部に助教授として赴任したことによって創設され、大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻（修士課程）、大学院人文社会科学研究科公共研究専攻公共教育教育分野（博士後期課程、2017 年度からは人文公共学府人文公共学専攻公共学コース）、そして教育学部小学校教員養成課程・中学校教員養成課程・生涯教育課程の学生が所属し、新しい授業、教育方法、教材を開発することに関わる研究を行うようになりました。2011 年度からは大学院修士課程が改組され、教育科学専攻言語・社会系の学生が研究室に所属することとなりました。そして、2013 年度からは藤川の担当が教科教育科学専攻教育開発臨床系に変更となり、教育開発臨床系の学生が所属するようになり、さらに 2016 年度からは大学院修士課程がさらに改組され、新設の学校教育学専攻横断型授業づくり系の学生が研究室に所属しています。大学院を修了して大学教員となった者等も投稿してくれるようになっていきます。

第 1 巻で詳しく論じたように、教師たちによる「授業づくり」もしくは「授業実践開発」の活動は、日本の教育界における実践の発展に大きく寄与してきました。この「授業づくり」「授業実践開発」の営みを、大学院レベルの研究として位置づけ、さらに発展させることが、私どもの課題です。こうした「授業実践開発」の研究を地道に重ね、こうして第 10 巻の節目を迎えることができたことを、大変ありがたく思っております。

今回も、幼児教育、VR（バーチャル・リアリティ）、アレルギー、ニュートンのゆりかご、魯迅「故郷」、地域活動等、多様なテーマを取り上げた論文を収録することができました。こうした研究成果が学校現場の実践に貢献するものとなることを願っています。

本紀要の発行においては、研究室を基盤として活動する NPO 法人企業教育研究会の支援を受けており、過去の掲載論文も同法人サイト内「藤川研究室論文集」ページに、他の論文等とともに掲載しております。

今後も、多様な方々の協力を得つつ、これからの時代に必要となるテーマにおいて、授業実践開発に関わる研究を進めてまいりたいと考えています。

ご協力いただいているすべての皆様に感謝申し上げます。鋭いご批判とあたたかい応援との両方を賜れば幸いに存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

千葉大学教育学部教授  
藤川 大祐